

三浦半島のトーチカ探索記

神野 幸人

(会員 鎌倉市台)

前略

佐伯史談、毎回楽しく読んでいます。

一八四号の「三浦半島の陣地構築」興味深く読みました。

私、昭和三十四年から鎌倉に住んでいます。相模湾が近く、江の島、腰越の漁港には車で十分程で行けますので、磯釣りを楽しんでいましたが、ある漁師さんと親しくなり、船釣りに転向しました(三十数年前)。その頃の相模湾の船は小船で遠い沖には行けませんでした、何時も大漁でした。三十年程前、東京湾、鯛が大漁とて、友人と二人で三浦半島松輪、間口港行き、ここでも、漁師さんと親しくなり、以来、両船を主に両湾に出船して

います(釣記抄)。

又、昭和四十四年より、ある会社の代理店として、神奈川県、千葉県、静岡県に船の巻き上げ機(ウインチ)を販売。各県の漁業連合会を通して、津々、浦々の漁港にセールスで回りました。特に、三浦半島は近いうちに釣り場と重なって、数え切れない程訪れていますのと、私も軍歴あり(大正十五年生)、同封(和田部隊)旧地が懐かしく台湾に五回旅をしました。トーチカ記の林様は、私より年配の方と思われませんが、記憶力の凄さに感服しました。三浦海岸は、三浦市と横須賀市にまたがっています。三浦市の方は飯島さんが調査済みなので、横須賀市の方を調べることにしました。先生のお役にたてば幸いです。

七月十五日(土)

十二時頃、北下浦行政センター着。閉館、昼食にもかかわらず、皆さん親切です。年長の方(六十四才とか)も軍隊事は詳しくありませんので、郷土史に詳しい先生を紹介していただく。(青木栄治先生・元教師)(飯島さんをご存じでした)

七月十六日(日)

電話にて用件を話し、ご都合をお聞きす。

二十日(祝日)十時、行政センター休館も、門を開けて待つと。

七月二十日(木)

歴史の好きな玉井眞太郎さんと二人して、五時四十分鎌倉発、慣れた道三十三キロ段、一時間にて小浦に着く。

金田湾漁港の崖に「やぐら」あり。坑口らしきあるも、高くて確ならず。

★ 円福寺着、深閑として人影なし、槇(?)の老木あり、幹空洞なり、蘇鉄・銀杏の大樹、寺歴を語る。

★ 一・五キロ走って、法昌寺に着く。掃除の奥さんの許しを得て、二〇〇段程の階段を上る。この日、猛暑、早朝なるも汗流る。山頂より小浜の岬絵のごとし、下山して住職(三浦市南下浦町菊名一五九、伊藤謙允様)にお話を聞く。

★ 車を移動して法昌寺の前山に登る。岩盤の道苔、むし滑りを心配す、蜘蛛の巣を払いながら

山道を一〇〇メートル程汗ふきふき登る。菊名重氏の碑の前に狭い島がありその先は道の定かならず、下山す。

★ 住職におそわつた高抜の崖に、銃口を探す。砂浜より一メートル程の高さなり、この付近、海水客少し、三浦海岸一望なり。

★ 十時前、行政センター着、守衛さん、青木先生より電話ありとて、門を開ける。青木先生来り、初対面、名刺を交わす。佐伯史談をお見せして、主旨を話す。

一読して、私より詳しい先生がおられるから紹介しますと、荒井先生宅を訪れる。一時間程お話を聞く、もう戦時中の事を知る人も話す人も無くなった。

記して残してくれるとは、有り難い事だと、歓迎され、恐縮しました(牧水の関係で延岡はよく知っていましたが、佐伯のことはご存じありませんでした)。奥さんもいろいろとお話してくれました(特攻隊員のこと、空腹で山百合の根を食べた兵隊さん、腕立て伏せの罰直、

等々)。

戦時の遺物また一つ消ゆ。

★

トーチカを汗して探しました。通行人やバスの客が、不審そうに見ていました。Uターンして又、山に登り、汗をかきました。根岸先生宅にて、オロナミンと冷えた麦茶を戴いたとき、なんとすばらしい方々だろう、トーチカを探しに来て本当によかったと幸福感にひたりました。三十分程、海軍工廠の話を書きました。

青木先生は、更にトーチカの跡地をと案内してくれました。

別れたのは二時過ぎでした。四時間、昼飯もせず、大汗かいて案内して戴いたこと、厚く厚く御礼申し上げます。

★

松輪大浦海岸にトーチカが一基あるとのこと。後日調べます。

★

八月五日六時、資生堂釣部出船(松輪江奈港、徳八丸)待ち時間を利用して、岩崎・高橋・玉井氏と四人して探す。早朝、畑する人に聞くに、数年前埋め立てたと位置を指さす。行くも埋め立ての壁、立ち塞ぎ、通行不可なり。

玉井さんと遅い昼食をとる。帰路、露店に西瓜の大王二個買う。帰宅は五時三十分であった。妻、ご苦労さまでしたと、風呂沸き、ビール冷え、鮎の塩焼き、平鯨の刺身、有り難きかな。

終

【トーチカとは何ぞや】

わが娘を含め、五十才以下の人は殆ど、トーチカを知りません。

ある若者はトーチランプのようなものですかと。

広辞林にも広辞苑にも記載なし。

ノルマンデー作戦で、連合軍を迎え撃ったドイツ軍の陣地、要塞(コンクリート製)と同じようなものだが、程度しか説明できません。

トーチカも、古語になりました。

